


## 1. 総論

## 【総括判断】「管内経済は、持ち直している」








項目	前回（4年10月判断）	今回（5年1月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに持ち直している	持ち直している	

（注）5年1月判断は、前回4年10月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

## （判断の要点）

個人消費は、持ち直している。生産活動は、一進一退の状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

## 【各項目の判断】

項目	前回（4年10月判断）	今回（5年1月判断）	前回比較
個人消費	緩やかに持ち直している	持ち直している	
生産活動	一進一退の状況にある	一進一退の状況にある	
雇用情勢	持ち直しつつある	緩やかに持ち直している	
設備投資	4年度は増加見込み	4年度は増加見込み	
企業収益	4年度は増益見込み	4年度は増益見込み	
住宅建設	前年を上回っている	前年を下回っている	
輸出	前年を上回っている	前年を上回っている	

## 【先行き】

先行きについては、ウィズコロナの下で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響や中国における感染拡大の影響に十分注意する必要がある。

## 2. 各論

### ■ 個人消費 「持ち直している」

百貨店販売は、水際対策の緩和以降、インバウンド需要が増加していることなどから、前年を上回っている。スーパー販売は、商品単価の上昇により、前年を上回っている。コンビニエンスストア販売は、全国旅行支援開始による行楽需要の増加などにより、前年を上回っている。乗用車販売は、一部で部品不足等による供給遅れの影響がみられるものの、前年を上回っている。ドラッグストア販売は、食料品のほか、外出機会の増加による化粧品の売上増加などから、前年を上回っている。家電大型専門店販売は、買替え需要に落ち着きが見られることなどから、前年を下回っている。ホームセンター販売は、前年並みで推移している。旅行取扱高は、全国旅行支援開始及び水際対策の緩和により国内外への旅行が増加している。

(主なヒアリング結果)

- これまで免税の取扱いは一日に数件程度であったが、入国制限緩和直後から100件超の取扱いとなっている。12月の売上高についてもコロナ前(2018年)の8割以上まで戻ってきている。(百貨店、大企業)
- 10-12月期の売上高は、商品の値上げを受けて前年比2-3%増で推移している。来店客数は概ね横ばいで推移している。(スーパー、中小企業)
- 商品の値上げによる客単価の上昇に加え、全国旅行支援開始による来店客数の増加もあり、売上は前年を超えている。(コンビニ、大企業)
- 全国旅行支援の開始により国内旅行が好調に推移している。もっとも、コロナ感染者の増加に加え、旅行支援の対象外であった年末年始についてはやや伸び悩み、ほぼ前年度並みであった。(旅行代理店、中堅企業)
- 全国旅行支援開始により稼働率が回復してきている。また、入国制限緩和により、外国人宿泊客の利用も見られるようになった。(宿泊、中堅企業)
- これまで九州圏内からの来場者が中心であったが、全国旅行支援の開始後は全国各地から来場者が増加している。入場者数・宿泊者数も増加基調であり、コロナ前を上回る水準で推移している。(娯楽、大企業)
- 外出機会の増加により、ロードサイド店の売上が増加している。(飲食、大企業)

### ■ 生産活動 「一進一退の状況にある」

輸送機械の自動車は、一部に供給制約の影響や海外向けの需要減少が見られる中、横ばい圏内で推移している。鉄鋼は、自動車向けが復調傾向にある一方、海外需要が低調なことから前年を下回っている。電子部品・デバイス、海外向けなど一部に弱含みの動きがみられるものの、高水準で推移している。造船は、一定の受注残高及び操業を維持している。このように、生産活動は一進一退の状況にある。

- 部品供給が不安定な状況に加え、中国向けの需要減少により生産台数は前年を下回って推移している。先行きも不透明感が強く、挽回生産とはならない見込み。(輸送機械、大企業)
- 自動車向けが復調傾向にある一方、中国の鋼材需要は引き続き低調で先行き不透明感が強い。もっとも、大手取引先と値上げで合意したことや、価格転嫁のタイムラグを小さくするなど、収益構造の改善に取り組んでいることにより、事業環境が低迷するなかでも一定の利益を確保できている。(鉄鋼、大企業)
- 引き続き自動車メーカー減産の影響や海外需要の減少がみられるが、当社全体で見れば電機部品、電子部品とも生産数量は落ちておらず、堅調に推移している。(情報通信機械、大企業)

### ■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率は改善の動きが継続しているほか、新規求人数も前年を上回って推移するなど、雇用情勢は緩やかに持ち直している。

- 半導体関連企業の熊本進出などもあり、人材確保競争は厳しくなるだろう。物価高を受けた賃金への対応は特段行っていないが、これまでも業績に応じた一時金は支給しており、今後は賃上げを検討している。(情報通信機械、大企業)
- 売上は前年より増加しているが、まずは業績の回復が先であり、賃金アップはそのあとだと考える。賞与も業績にあわせて支給されているが、コロナ前水準までは戻っていない。(百貨店、大企業)
- 有効求人倍率は前月を上回って推移しており、新規求人数もコロナ禍前(2019年同月)の水準を超えるなど、雇用情勢は改善している。一方で、飲食業や運輸業の新規求人数はコロナ前水準まで戻っておらず、一部で厳しさがみられる。(公的機関)

■ **設備投資 「4年度は増加見込み」**（全産業）「法人企業景気予測調査」4年10-12月期

- 製造業では、「自動車・同附属品」等で減少見込みとなっているものの、「非鉄金属」、「情報通信機械器具」等で増加見込みとなっていることから、全体では増加見込みとなっている。
- 非製造業では、「不動産」等で減少見込みとなっているものの、「運輸、郵便」、「金融、保険」等で増加見込みとなっていることから、全体では増加見込みとなっている。

- 通信関連や自動車向けなど広範囲で需要拡大が継続しており、シリコンウエハー関連の高精度化・生産能力増強の大型投資を実施するため、増加見込みとなっている。（非鉄金属、中堅企業）
- 昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、投資の抑制を行い、維持更新が中心であったが、今年度は維持更新に加え、ビル建設などを予定しており、増加見込みとなっている。（運輸、郵便、大企業）

■ **企業収益 「4年度は増益見込み」**（全産業）「法人企業景気予測調査」4年10-12月期

- 製造業では、「自動車・同附属品」等で減益見込みとなっているものの、「電気機械器具」、「非鉄金属」等で増益見込みとなっていることから、全体では増益見込みとなっている。
- 非製造業では、「建設」等で減益見込みとなっているものの、「運輸、郵便」、「小売」等で増益見込みとなっていることから、全体では増益見込みとなっている。

■ **住宅建設 「前年を下回っている」**

- 新設住宅着工戸数でみると、貸家、給与住宅が増加しているものの、持家、分譲住宅が減少していることから前年を下回っている。




■ **輸出 「前年を上回っている」**

- 輸出（円ベース）は、前年を上回っている。なお、輸入（円ベース）は、前年を上回っている。

（その他項目）

- 企業の景況感を法人企業景気予測調査（4年10-12月期）の景況判断BSIでみると、4年10-12月期は、「上昇」超に転じている。先行きについては、5年1-3月期は、「下降」超に転じる見通しとなっている。

### 3. 各県の総括判断

	前回（4年10月判断）	今回（5年1月判断）	前回比較	総括判断の要点
福岡県	緩やかに持ち直している	持ち直している		個人消費は、持ち直している。生産活動は、一進一退の状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。
佐賀県	持ち直しつつある	持ち直している		個人消費は、持ち直している。生産活動は、物価上昇や供給面での制約等の影響がみられるものの、持ち直しつつある。雇用情勢は、持ち直している。
長崎県	緩やかに持ち直している	持ち直している		個人消費は、持ち直している。生産活動は、持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。